

## 「 神の介入 ① 」

ルカによる福音書 1章 26節～38節

説 教 本庄侑子牧師

待降節を迎えました。教会の暦では1年の始まりです。「わたしは主のはしためです。お言葉どおりこの身に成りますように」(38節)というマリヤの祈りをお聞きしています。

「恵まれた女よ、おめでとう、主があなたと共におられます」(28節)御使の言葉にマリヤはおのきました。続く「見よ、あなたはみごもって男の子を産むでしょう。その子をイエスと名づけなさい」(31節)という言葉は、マリアを突き落としました。マリヤには、ヨセフといういいなづけがいたのに、その人以外の子を身ごもったことになるからです。聖霊によって子を宿したと言っても信じてもらえないかもしれません。当時のユダヤ社会で結婚相手以外と関係をもつことは死刑に値する罪でした。

マリヤの人生の大波乱はこの時から始まりました。臨月の時に人口調査の勅令が発せられ、寒空の中でヨセフの故郷に向かいました。出産の時、お産の場所がなく、馬小屋で子を産みます。産まれた子がヘロデという支配者に狙われたため、エジプトで難民生活を送ることになります。その子が成長したかと思うと、神の国を伝えるとして家を出て行き、数年後には十字架にかけられるのです。御使は、これらすべてのことを知ったうえで、「恵まれた女よ、おめでとう」とマリヤに呼びかけたのです。

私たちは何を恵みとして生きているのでしょうか。この御言葉の告げる恵みとは、自分の抱く願いがかなうという意味ではありません。人々の祈りに応えて動き出す時に、神様がマリヤを選ばれたということです。

神様が私たちの人生の中に入ってこられました。これからどうなるかわからない1週間、あるいは1年の歩み。その中で悲しくなるようなこともあるでしょう。その意味が分からなくても、神様は誰かの祈りに応えるために私たちを用いてくださっています。「はしため」とは召し使いであり、神様のなさることに従う者です。神様のご計画が成就するよう、それを自分の人生にまるごと引き受ける存在です。

マリヤは、自分の人生設計をはるかに越えることをすぐに受け入れられたわけではありません。むしろ恐れました。しかし、御使を通じて神様は親しく語り続けられました。また、エリザベツを紹介されます。半年前にエリザベツも不思議なしかたで子を見ごもっていました。マリヤの抱く恐れや不安をマリヤ以上によく分かって、それらを神様の恵みとして語る人だったのではないのでしょうか。

この祈りは、神様が与えてくださった祈りです。マリヤがこの祈りを祈れるまで、御使はマリヤのもとを離れませんでした。この後もこの祈りをすんなり祈れたわけではないでしょう。自分の産ん

だ子が十字架につけられるときなどは、とても素直には祈れなかったでしょう。それでも神様はマリヤと共にいて、マリヤの人生を覆っておられました。

今年のアドヴェントをなぜこの箇所から始めるのか。それは私自身の召命と切り離せなかったからでもあります。今年度、思いがけない使命を帯び、次年度も見通しが立たないままです。改めて、この箇所から聞き直したいと思いました。

しかし、説教準備の中で後悔しました。これまでのことを思い出して、今日、この箇所から説教するのが怖くなりました。しかし、先週も主は御言葉や兄弟姉妹との様々なやりとりを通して語りくださいました。軽込牧師というエリザベツのような方も備えられていました。

約9年前、それまでの夢が散らされて、私は東京神学大学(以下「東神大」)に入学することになりました。当時の所属教会で私を送り出す祈りが捧げられたとき、私は全力でこの祈りを祈りました。この祈り以外に私の気持ちを説明できるものはありませんでした。献身の志が与えられてから、友は去り、家族からは勘当同然の扱いを受けました。牧師先生からは、女性教職として歩むことの難しさを聞かされました。それでも召しの声は消えませんでした。

当時の私には聖書の中にしか語り合える友がおらず、哀歌を読んでいましたが、その哀歌の御言葉がその日の礼拝で読まれました。「神様が全部ご存じの上で、呼んでくださったんだ」と涙が溢れ、迷いもなくなりました。神様に向かって心から祈っていました。神様は、この祈りを祈れる私にして、牧師としての道に踏み出させてくださいました。

東神大卒業後、大阪教会に遣わされることになりました。役員会との面談の日、聖日礼拝でマリヤの祈りからの説教を聞きました。大阪への行き帰りの新幹線ですとマリヤの祈りを祈っていました。按手を受けた日も、聖日礼拝でマリヤの祈りからの説教を聞きました。震える思いで、この祈りをもって教会に仕えるという所信表明をすることとなりました。

もう一度今日、大阪教会のみなさんと共にこの祈りから始めるようにと神様が導いてくださいました。皆さんが、今日をどんな思いで迎えているのか、神様はよくご存じです。これまでのことも、これからのことも、悔しさや寂しさも全てご存じの神様が、あなたを選び、その人生の中に入ってこられました。今日からの毎日にも神様の恵みが満ちています。「恵まれた女よ、おめでとう、主があなたと共におられます」。

(記 説教要約奉仕者)